

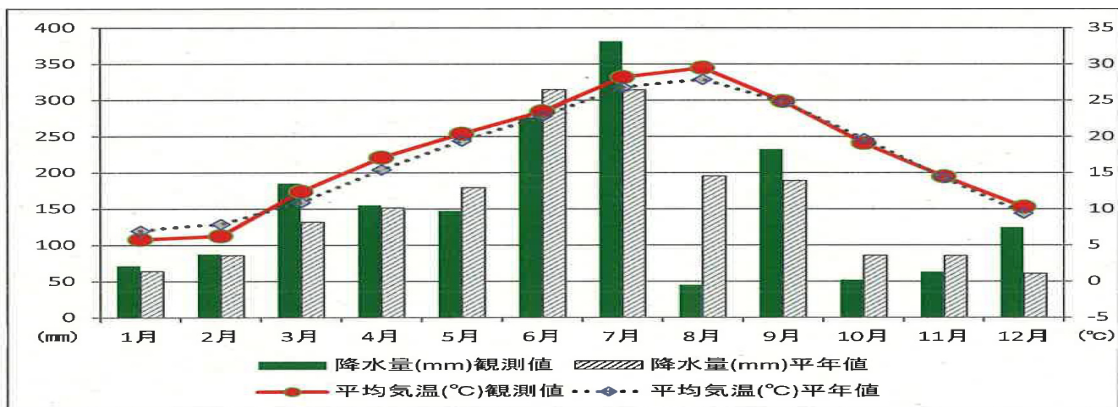
気象の概況

2018年の天候

冬(1~2月)は、冬型の気圧配置になることが多く寒気の影響を受け気温が低くなった。1月中旬には強い寒気が流れ込み大雪となった日があった。春(3~5月)は、高気圧と低気圧が交互に通過して数日の周期で天気は変化した。また、4月は南からの暖かい空気が流れ込みやすく気温が平年よりかなり高くなった。夏(6~8月)は、6月から7月上旬までは梅雨前線や台風の影響で雨の日が多く、大雨となる日もあった。7月6日には大雨が続いた影響で長崎県では初となる大雨特別警報を発表した。7月中旬から8月にかけては台風等の影響で大雨となる日もあったが、太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多く厳しい暑さとなった。秋(9~11月)は、秋雨前線の影響を受けやすく曇りや雨の日が多く、台風が接近する日もあったが、概ね高気圧に覆われ晴れる日が多かった。12月は、高気圧と低気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変化した。月末には冬型の気圧配置となり雪の降る日もあった。

平成30年の県内各地の年平均気温・年降水量

観測地点名	年平均気温			年降水量		
	観測値 ()	平年差 ()	階級	観測値 (mm)	平年比(%)	階級
長崎	17.7	+0.5	高い	1821.0	98	平年並
厳原	16.2	+0.4	高い	2926.0	131	かなり多い
平戸	16.6	+0.5	高い	2202.5	104	平年並
佐世保	17.6	+0.6	高い	1988.0	102	平年並
雲仙岳	13.2	+0.4	高い	3032.5	105	平年並
福江	17.2	+0.4	高い	1863.0	80	少ない



平成30年各月の長崎の月平均気温・月降水量

2018年の梅雨

長崎県を含む九州北部地方の梅雨入り	6月5日ごろ(平年:6月5日ごろ)
同の梅雨明け	7月9日ごろ(平年:7月19日ごろ)
梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「日ごろ」と表現している。	

2018年の台風

台風の発生数	29個(平年25.6個)
台風の九州北部地方への接近数 ¹ (上陸数含)	8個(平年3.2個)
台風の九州への上陸数 ²	2個(平年1.1個)

台風第12号が7月29日1時頃に三重県伊勢市付近に上陸後、7月29日17時半頃に福岡県豊前市付近に再上陸した。また、台風第15号が8月15日3時前後に宮崎県日向市付近に上陸した。

¹ 台風の中心が九州北部地方(山口県を含む)のいずれかの気象官署から300km以内に入った台風の数をいいます。

² 台風の中心が九州の海岸線に達した場合をいいます。ただし、小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過と数えません。